

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3243号 2016.9.8 発行

リオ・パラリンピック開幕 史上最大規模

日本経済新聞 2016年9月8日

【リオデジャネイロ=共同】第15回パラリンピック・リオデジャネイロ大会は7日、リオデジャネイロ市中心部のマラカナン競技場で開会式を行い、開幕した。障害者スポーツ最大の祭典は初めて南米を舞台として、159カ国・地域と初結成の難民チームから史上最大規模の約4300選手が集う。



開会式のパフォーマンスで勢いよく飛び出す車いすジャンパー（7日、リオデジャネイロ）=寺沢将幸撮影

日本は2020年東京大会に弾みをつけようと132人の選手団を派遣し、12年ロンドン大会の倍となる金メダル10個を目標とする。入場行進では旗手を務める車いすテニス女子の上地結衣（22）=エイベックス=らが登場。

大会スローガンは「新しい世界」。国ぐるみのドーピング問題が発覚した強豪ロシアに全面除外の

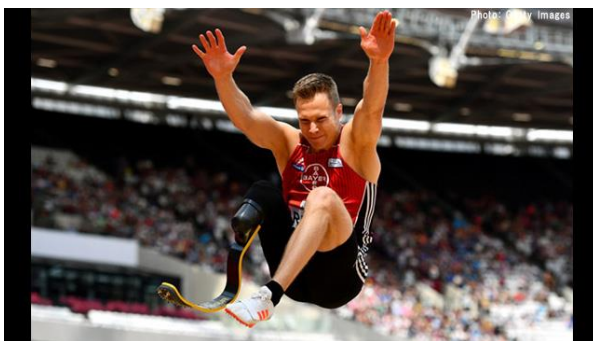
厳しい処分が下され、薬物汚染に揺れるスポーツ界に一石を投じる大会にもなる。

マラカナン競技場は赤、青、緑で彩られたパラリンピックのシンボルマークが飾られ、開会式は入場券が完売した。「誰もが持つ心の強さ」をテーマに、障害者が大胆な曲芸を披露するなどメッセージ性を込めた演出。2千人のボランティアが参加し、カーニバルの街リオの象徴であるサンバも取り入れた。

大会組織委員会はブラジル経済の深刻な低迷の影響を受け、会場変更など経費削減に奔走した。8月末に発足したテメル新政権は公金を抛出し、来年以降も障害者スポーツ発展を支援する姿勢を打ち出して大会機運を高めた。

競技は8日に本格的に始まる。新採用のカヌーとトライアスロンを加えた22競技、528種目でメダルが争われ、18日に閉幕する。

News Up パラリンピック 知っておきたい10のこと NHK ニュース 2016年9月7日

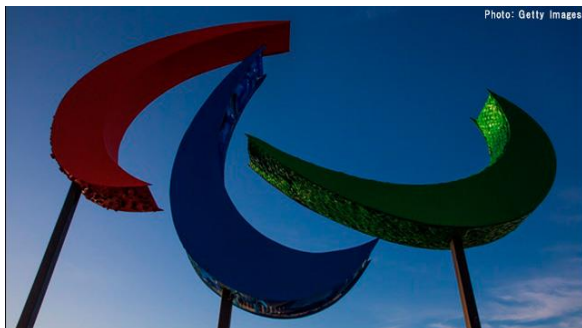


ブラジルのリオデジャネイロでは、オリンピックの熱戦に続いて、日本時間の8日、パラリンピックが開幕します。パラリンピックの歴史や豆知識、それに今大会の注目点など、開幕前に知っておきたいことをまとめました。

1 パラリンピックの原点

1948年、イギリスのストーク・マンデビル病院で、第二次世界大戦で傷ついた兵士たちのリハビリの一環として、車

いすの選手によるアーチェリー大会が開かれたのがパラリンピックの原点と言われてい
ます。大会はその後、国際大会へと発展し、1960年にオリンピックの開催年に実施する
大会は、その開催地でオリンピック終了後に開くことが決まりました。そして、同じ年に
オリンピックが開催されたローマで大会が行われ、後に第1回のパラリンピックと位置づ



けられました。

当初、大会は車いすの選手のために開かれ、「Paraplegia (下半身のまひ)」と「Olympic」の造語として、パラリンピックと名付けられましたが、現在は「Parallel Olympic (もう1つのオリンピック)」と解釈されています。

2 五輪と異なるシンボルマーク

パラリンピックのシンボルマークは「スリー・アギトス」と呼ばれています。アギトスとはラテン語で「私は動く」という意味です。青、赤、緑の3色は、世界の国旗で最も多用されている色ということで選ばれました。中心を取り囲むように位置する三色の曲線は動きを象徴したもので、世界中から選手が集まり、競い合うことを表しています。

3 振ると音が出るメダル

リオデジャネイロパラリンピックのメダルは視覚障害の選手への配慮で、中が空洞で鉄球が入っていて、振ると鈴のように音が出る構造になっています。音の大きさで、金、銀、銅の色の区別をすることができ、金メダルは、いちばん大きい音が出ることです。

4 五輪にはない競技も

リオデジャネイロ大会では22競技が行われますが、オリンピックにはない競技が2つあります。

1つはゴールボールです。視覚障害の選手が目隠しをして、相手ゴールに向かって鈴の入ったボールを投げ合い、得点を競う競技です。選手は音を頼りにボールの位置を把握するため、観客は声を出して応援することができません。静寂の中で激しい攻防が繰り広げられる、パラリンピックならではの競技です。

もう1つは、ボッチャです。ボッチャは重度脳性麻痺(まひ)や手足に同じ程度の重い障害がある選手が行う競技で、双方が赤と青のボールを投げたり、転がしたりして、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、どれだけ近づけたかを競います。

5 ロシア選手団は参加できず

パラリンピックでもドーピング問題が影を落としました。WADA=世界アンチドーピング機構がロシアのドーピングについて、国家主導だったと認定したことを受けて、IPC

＝国際パラリンピック委員会はロシア選手団の参加を認めないと発表し、ロシアのすべての選手がパラリンピックに出場することができなくなりました。オリンピックでは、IOC＝国際オリンピック委員会が厳しい条件付きで出場を認めていて、オリンピックとパラリンピックで異なる判断となりました。

6 チケット販売は60%超に

リオデジャネイロ大会では当初、チケットの販売が伸び悩んでいましたが、6日の組織委員会などの発表によりますと、チケットの販売枚数は用意された250万枚のうちの60%を超える160万枚に達したと発表しました。

4年後の東京大会で、日本パラリンピック委員会は各競技会場を満員にすることを目標にしていますが、日本でもパラリンピックへの理解や関心をいかに高めていくかが課題です。

7 パラリンピックでも難民選手団

リオデジャネイロオリンピックでは史上初めて難民選手団が結成され、注目されました。パラリンピックでも難民選手団が結成され、シリアとイランの2人の選手が出場します。シリア出身で競泳男子のイブラヒム・フセイン選手は3年前、道路に着弾したロケット弾の爆発によって右足の一部を失いました。その後、避難先のギリシャでけがの手当を受けたあと水泳のトレーニングを続けていました。フセイン選手は「1度は自分の夢も消えたと思ったが、金メダルを獲得して、すべての人に夢はかなうとメッセージを送りたい」と話しています。



による世界選手権で8メートル40センチを跳び、ロンドンオリンピックで優勝した選手の記録を上回りました。レーム選手はリオデジャネイロオリンピックへの出場も希望しましたが、「義足が競技に有利に働いている」と指摘を受け、断念しました。リオデジャネイロオリンピックの金メダリストの記録は8メートル38センチで、レーム選手がこの記録を上回ると注目が集まっています。

話しています。

8 五輪の優勝記録を超える選手も

障害者がオリンピックに出場し、健全者に勝ったら金メダルが取れるのか、そんな議論を呼んだ選手がいます。ロンドンパラリンピックの陸上男子走り幅跳びの金メダリストで、右足が義足のドイツのマルクス・レーム選手です。14歳のとき、事故で右足の膝から下を失ったレーム選手は去年、障害のある選手たちによる世界選手権で8メートル40センチを跳び、ロンドンオリンピックで優勝した選手の記録を上回りました。レーム選手はリオデジャネイロオリンピックへの出場も希望しましたが、「義足が競技に有利に働いている」と指摘を受け、断念しました。リオデジャネイロオリンピックの金メダリストの記録は8メートル38センチで、レーム選手がこの記録を上回ると注目が集まっています。

9 バタフライマダムに注目

日本からも注目の選手が出場します。その1人で、卓球の別所キミエ選手は68歳で日本選手最年長です。腰の骨の腫瘍が原因で車いす生活になり、45歳から卓球を始めました。4大会連続の出場で、今回は過去最高の5位を上回る初のメダル獲得を目指しています。車いすや髪に、チョウや花などの飾りをつけた個性



的な装いがトレードマークで、海外の選手からは「バタフライマダム」と呼ばれているということです。別所選手は「いくつになっても挑戦する姿を見てもらいたいし、若い人には負けられない」と話しています。

10 「リオはまだ終わっていない」

オリンピックを終えて、日本選手団が帰国した先月24日、メダリストによる記者会見が行われました。その中で、競泳の萩野公介選手が「自分もたくさんの応援で頑張ることができたので、今度はパラリンピックも応援して、みんなで一緒に戦ってほしい」と話しています。

す」と話すなど、多くの選手のパラリンピックについての発言が目立ちました。また、ネットでもオリンピック閉幕直後から、「リオはまだ終わっていない」とか、「東京五輪の前にパラリンピックがある」などと書き込みが相次ぎ、パラリンピックも注目すべきだといった意見が多く見られました。日本時間の8日から19日までの12日間の日程で開かれるパラリンピック。選手たちが繰り広げる熱戦や、交流に注目しましょう。

【パラリンピック】増やせ障がい者スポーツ指導員 4年後パラへ目標3万人

産経新聞 2016年9月8日

障害者スポーツのイベントで、子供にブラインドサッカーを教える指導員の島良紀さん＝東京都北区



障害がある人のスポーツ参加を支援する「障がい者スポーツ指導員」が全国に2万2214人（7月末現在）で、10年以上ほとんど増えていないことが、「公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会」のまとめで分かった。リオデジャネイロ・パラリンピックが7日に開幕。協会は平成32年の東京大会に向け、障害者スポーツの裾野を広げるため指導員を3万人に増やしたい考え。制

度の認知度を高め、研修を増やすなどの環境づくりが急務となっている。

指導員は同協会が作った資格制度。初級から上級まで3段階あり、初級は障害の特性などについて必要な講習を受ければ取得できる。福祉施設や学校、スポーツクラブといった場所で、障害の特性に応じた運動メニューを考えたり、安全に取り組むための配慮をしたりする。

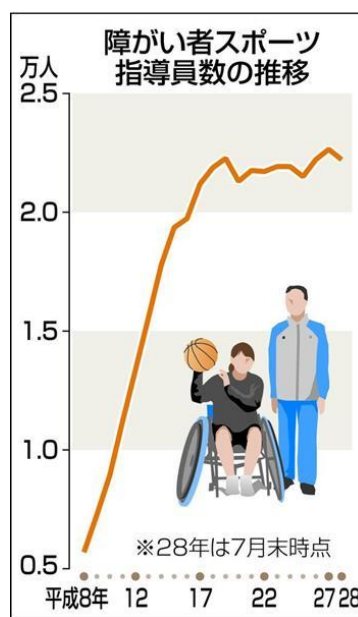
協会によると、指導員は8年の5693人から年々増加。17年に初めて2万人を超えたが、その後は2万2千人前後で横ばいとなっている。

障 害 者 の 人 数 に 対 す る ス ポ ー ツ 指 導 員 の 割 合	大分	0.65%
	鳥取	0.54
	福井	0.47
	⋮	
	京都	0.19
	福島 山梨	0.17 0.14

※障害者（平成26年度）に対するスポーツ指導員（28年7月現在）の人数比を計算。小数点第3位を四捨五入

7月末現在、都道府県別で最も多いのは東京の2189人で、大阪（1497人）、愛知（1383人）、神奈川（1364人）が続いた。

全国の障害者は、手帳を交付されている



人だけで700万人を超える。障害者手帳を持つ人の数に対し、指導員の割合は全国平均でわずか0.31%。都道府県で比較すると、割合が高いのは大分（527人、0.65%）、鳥取（219人、0.54%）、福井（248人、0.47%）、低いのは山梨（77人、0.14%）、福島（213人、0.17%）、京都（353人、0.19%）だった。

同協会の水原由明スポーツ推進部長は「障害者と健常者がともにスポーツを楽しめる環境作りには指導員が大きな役割を果たす。できるだけ多くの人に関心を持ってほしい」と話している。

■スポーツ参加するには

パラリンピックの起源は、1948年のロンドン・オリンピック開会式の日、ロンドン郊外の病院内でリハビリテーションのために行われたスポーツ大会とされる。競技の側

面が注目されているが、楽しみとしてのスポーツや、機能回復訓練の一環として行われるリハビリテーションスポーツも活発化が期待される。

日本リハビリテーション医学会（東京都新宿区）は、すべての障害者が障害の種類や程度に応じて、身近な場所で、適したスポーツやレクリエーションに参加できるよう、ホームページ（http://www.jarm.or.jp/member/member_sports/）で情報提供を行っている。都道府県や指定都市別の障害者スポーツ協会の連絡先、競技や種目別の団体の連絡先、地域の障害者スポーツセンターの一覧表などが載っている。参考にしたい。

■娘の死きっかけに指導員で「恩返し」

「鈴の音をよく聞いて、ボールを蹴ってみよう」

8月下旬、東京都北区で開かれた障害者スポーツの体験イベント。世田谷区のスポーツ指導員、島良紀さん（65）がブラインドサッカーのコーナーで、目隠しをした子供たちに、音を頼りに動くよう教えていた。

島さんは12年前に初級指導員の資格を取得。週末に開かれる大会やイベントでは、障害のある人がスポーツを楽しめるよう競技の手助けをしたり、安全に配慮をしたりする。今は中級資格を取得。東京都の陸上選手団のコーチも務める。

障害の種類も重さも人によってさまざま、どんな競技でも安全にできるよう対応しなければならない。食事やトイレ、競技場までの移動なども支える。「競技だけでなく、その人がやりたいことを手助けするのが、指導員の役割です」と語る。

指導員になるきっかけを与えてくれたのは、昨年5月に29歳で亡くなった長女、幸恵さんだった。幸恵さんは1歳のときに、筋肉や靭帯（じんたい）が骨に変わる難病「進行性骨化性線維異形成症」を発症した。200万人に1人がなる病気とされ、手足の関節の動きが悪くなり、呼吸障害も引き起こす。治療方法はなく、医者には「寿命は20歳」と宣告された。

幸恵さんは高校生になった頃から自力で歩けなくなり、車椅子生活に。希望を失いかけていたとき、車椅子に乗ったままでもできるハンドサッカーに出合い、練習に励んだ。陸上競技も開始し、全国大会で優勝を果たした。

内気な性格だったが、「できなかったことができるようになり、目が輝きを放つようになった。スポーツで得た自信が、彼女の人生の大きな糧になった」と振り返る。

「娘の成長を支えてくれた人への恩返しに」と指導員になった島さん。「私にできることはわずかだが、一人でも多くの人に可能性を広げてほしい」と話している。

【用語解説】障がい者スポーツ指導員

日本障がい者スポーツ協会が公認する資格制度で、知識や経験によって初級、中級、上級の3段階がある。

初級は地域の大会や教室でスポーツに参加するきっかけづくりなどを手助けする。中級は地域行事などで中心となり、障害者スポーツの普及・振興を担う。上級はスポーツ大会などの企画運営に携わることができる。

初級は18歳以上で実習と講座を18時間以上受講することが条件。中級、上級は一定の活動経験が求められる。いずれも登録後、1年ごとの更新が必要となる。

1964年の東京パラリンピック カラー映像見つかる NHKニュース 2016年9月7日

1964年に開催された東京パラリンピックの開会式や競技の様子などが、カラーで鮮明に記録されているフィルム映像が見つかりました。日本障がい者スポーツ協会によりまずと、東京パラリンピックのカラー映像はこれまで確認されていないということです。

東京オリンピック閉会后、1964年11月に開催された東京パラリンピックは、21か国から378人の選手が参加しました。

見つかった映像は東京都内に住む船津英夫さん（80）が、当時8ミリのカラーフィルム

で撮影したもので、8分20秒ほどの映像が記録されています。

開会式の映像には、えび茶色のジャージーを着た日本の選手団やアメリカなどの選手たちが行進する様子のほか、秋晴れの空の下、参加国の色鮮やかな国旗がはためいている様子などが収められています。

また、車いすの短距離走や、やり投げなどの投てき競技、それに車いすバスケットボールなど、競技中の映像も撮影されています。

このほか、フィルムには通訳を行う語学ボランティアや競技の進行を補助するボーイスカウトなどスタッフの姿も収められていて、大会の運営の様子をうかがい知ることができます。

日本障がい者スポーツ協会によりますと、東京パラリンピックをカラーで撮影した映像はこれまで確認されていないということです。

映像を撮影した船津さんは「選手だけではなくて、大会を手助けするスタッフも撮っておこうと思った記憶があります。50年以上前に見たパラリンピックを引き継いだ2020年の東京パラリンピックも、元気でいられれば見に行ってみたいと思います」と話しています。

この映像はNHKアーカイブスの「番組発掘プロジェクト」の情報提供の呼びかけに船津さんが応じたことで存在が明らかになりました。「番組発掘プロジェクト」では、昭和30年代までの映像やNHKの過去の番組について、引き続き情報提供を呼びかけています。



社説：リオパラリンピック開幕／共生の意義を考える契機に 河北新報 2016年9月8日

オリンピックの熱気が一段落したのもつかの間、同じブラジル・リオデジャネイロで障害者スポーツの祭典、パラリンピックが7日（日本時間8日）開幕。肉体の限界を超えて頂点を目指すアスリートを応援するとともに、もう一つの五輪の意義を考えたい。

12日間の期間中、22競技528種目が行われ、約160カ国から約4350人の選手が参加する。ゴールボールなど、目にする機会が少ない競技も多い。テニスやバスケットボールなどは車いすでのプレーになる。

日本からは132人の選手団が臨む。東北関係選手は9人。車いすバスケットボール男子の藤本怜央選手（仙台市在住）＝宮城MAX＝が、選手団主将を務める。チームからは藤本選手のほか、藤井新悟選手（秋田県美郷町出身）、豊島英選手（いわき市出身）も選ばれている。

陸上男子砲丸投げに出場する大井利江選手（岩手県洋野町出身）は、4大会連続の出場で68歳。2004年のアテネでは円盤投げで「銀」、08年北京では「銅」を獲得し、「鉄人」とも称される。

障害者スポーツは、社会的な理解が進んでいるとは言いがたいのが実情だ。歴史的に傷病者の「治療」や「リハビリ」などの側面を有してきたこともあり、「見るスポーツ」という認識に欠け、競技力向上策も遅れていた。

実際、オリンピックに向けた一般の選手強化が文部科学省所管だったのに対し、障害者スポーツは厚生労働省の所管と縦割りになっていた。14年度、スポーツ庁設置の動きが加速する中で、やっと一元化された経緯がある。

パラリンピックの日本代表選手を対象としたアンケートでは、約2割がスポーツ施設の利用を断られるなどの経験をしていたという。ことし4月、障害者差別解消法が施行されたが、代表クラスの選手であっても、練習環境確保への壁がまだまだ高いことを物語って

いる。

障害者スポーツが抱える課題は、日本だけのものではない。今回のリオデジャネイロ大会でも、チケットの売り上げ不振やスポンサー不足で、組織委員会が8月中旬、自力での開催が危ういと発表していた。予定していた会場の一部が変更され、運営費として公的資金も拠出される事態に追い込まれた。

パラリンピックはパラレル（平行、同様の）とオリンピックの造語で、「もう一つの五輪」という意味だ。二つの大会はコインの裏表の関係にあり、どちらが欠けてもなりたない。

20年の東京でも、パラリンピックの成功なくして、大会の成功はあり得ないだろう。リオと同様の課題が、4年後にも問われるようなことがあってはならない。

7月にあった相模原市の障害者施設殺傷事件では、障害者と健常者の「共生社会」というテーマが、クローズアップされた。

スポーツの世界で障害者が生き生きと輝ける環境が育まれれば、社会全体に浸透していく。パラリンピックが、そのきっかけの一つになることを強く望みたい。

社説 パラリンピック 支援を拡大する契機に

毎日新聞 2016年9月8日

リオデジャネイロで障害者スポーツの祭典、パラリンピックが日本時間の8日開幕する。22競技528種目が実施され、約160カ国・地域から過去最多のロンドン大会を上回る約4400人が参加する。

逆境を乗り越えて挑戦する姿は五輪に劣らず見る人の心を揺さぶる。それだけにドーピング（禁止薬物使用）の力を借りるのは論外だ。

ロンドン大会で金メダル36個を獲得したロシア選手団について国際パラリンピック委員会（IPC）は国家主導のドーピング違反を理由に個人資格を含め参加を認めなかった。ロシアはスポーツ仲裁裁判所などに訴えたが、却下された。パラリンピックの価値は守られたと言える。

障害者スポーツの世界でもスポンサーの支援を受けて各国を転戦するプロ選手が増えたこともあり、競技レベルは年々、上がっている。

その意味で一番の注目は陸上の男子走り幅跳びだろう。右足が義足のマルクス・レーム選手（ドイツ）は昨年、障害者の世界選手権で8メートル40の世界記録をマークした。これはリオ五輪の優勝記録8メートル38を上回る。

レーム選手はリオ五輪出場を目指した。だが、国際陸上競技連盟からカーボン製の義足が競技するうえで有利に働いていないことを科学的に証明するよう求められ、最終的に断念した。パラリンピック本番では歴史に残るジャンプを期待したい。

義足の性能や公平性を巡る議論は決着していない。しかし、多くの日本代表選手の義足を手がけてきた義肢装具士の臼井二美男さんによれば、義足の板バネをたわませるための筋力は過酷なトレーニングがなければ得られないものだという。

義足をはじめ、失われた機能を代替する用具や道具は障害者スポーツに欠かせないが、オーダーメイドとなる最先端のものは個人が手軽に購入できる値段ではない。経済的な理由から手にすることができない国の選手たちもいる。これがパラリンピックに選手を派遣できる国が五輪より約40も少ない一因だ。

今大会、選手約130人が参加する日本は恵まれていると言えるだろう。それでも笹川スポーツ財団などによると、経済的な負担が重く、スポーツをしたくてもできない障害者は少なくない現実がある。スポーツ実施率は健常者の半分以下。日本代表選手も約2割が障害を理由に施設の利用を断られた経験をしている。

NHKは今回初めて、大会期間中毎日、競技の生中継を行う予定だ。普段目にするののない競技を知る機会が増えるだろう。4年後は東京で開催される。障害者がスポーツと出会い、続けるための支援を広げる契機としたい。

社説 [パラリンピック開幕] 障がい理解し楽しもう 沖縄タイムス 2016年9月8日

障がい者スポーツの祭典、リオデジャネイロ・パラリンピックが、きょう開幕する。日本勢のメダルラッシュに沸いた五輪に続き、世界にチャレンジする選手たちに声援を送りたい。

南米初の開催となる大会には、約160カ国・地域から4千人を超える選手が集う。日本からは132人が参加する。

22競技、528種目で熱戦が繰り広げられるパラリンピックの特徴は、五輪より200以上も多い種目にある。公平に競い合うため、障がいの種類や程度に応じ種目を細分化しているのだ。

例えば、沖縄市出身の上与那原寛和選手は「T52」というクラスで100、400、1500メートルに出場する。Tはトラック種目で、52は脊髄損傷などで車いすを用いる競技者を示す。同じ種別では数字が小さいほど障がいは重くなる。

五輪と違って、一般にはまだなじみの薄い競技もある。そのひとつ、視覚に障がいがある選手たちが対戦するゴールボールは、鈴の入ったボールを転がしてゴールを狙うもの。極限の集中力と察知力を必要とする。

車いす同士のぶつかり合いが唯一認められているウィルチェアーラグビーには、浦添市出身の仲里進選手が出場する。かつては「マダーボール（殺人球技）」と呼ばれていたほどの激しいスポーツだ。

障がいを知って、種目を理解し、ルールを勉強すれば、楽しみは増す。

東京大会の試金石となるリオのパラリンピックで、日本選手団は金メダル10個を目標に掲げている。

競泳の視覚障がいクラスで複数の金メダルが期待される木村敬一選手を筆頭に、初めて正式種目に採用された視覚障がい者女子マラソンで金を目指す道下美里選手など有望選手は多い。

県出身の上与那原選手も「一番いい色のメダル」と話している。世界ランク3位のウィルチェアーラグビーは悲願のメダルが懸かる。

日本選手だけでなく、超人的な身体能力を持つ外国選手のパフォーマンスにも注目が集まる。五輪出場を目指し健常者の大会で上位に食い込む選手もいるなど、競技レベルの向上は著しい。

今大会では五輪に続き難民チームが結成され、シリアとイラン生まれの選手も出場する。

選手たちにも思いっきり大会を楽しんでほしい。

先月放送されたNHK・Eテレの番組で、「感動する」「勇気をもらえる」など、障がいの姿を紋切り型に描くメディアの手法が取り上げられ、反響を呼んだ。

感動を与えるための道具として障がい者が使われることを「感動ポルノ」と呼んだジャーナリストで障がい者の故ステラ・ヤングさんの言葉を引いて問題提起したのである。

4千人の選手がいれば、4千人のストーリーがある。

紋切り型を自戒しつつ、共生社会の実現というパラリンピックの趣旨ともしっかりと向き合いたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

